

西宮 えびす



一月十日、本えびすの午前六時、表大門が開かれると、待ちかまえた八百余人の参拝者が我先にと本殿を目指して参道を駆けぬける開門神事。本殿に早く到着した順に三番までが福男に選ばれます。
福男奉告祭に引き続き、一番祈禱、鏡割りと、十日えびすは、いよいよ本番を迎えていきます。

平成9年
新春号

西宮神社 / 〒662 兵庫県西宮市社家町1-17
TEL / 0798-33-0321 FAX / 0798-33-5355

えびす

平成9年
新春号

▼境内の四季 (十日えびす・開運招福マグロ)



◎編集室から

震災から約1年9ヵ月ぶりに阪神高速神戸線も全線開通となり、西宮もようやく元の姿に戻りつつあります。しかしながら、未だ仮設住宅での不便な暮らしを余儀なくされている多くの方々もおられますし、神社の方も震災後手つかずの所も多く、完全復旧に向けて努力の日々が続いています。

さて今回は、平成8年に福男になられた方にお話を伺いました。厳寒の一夜を門前で明かされる体力と何年も続けて参加をされる姿に若人の気迫を感じました。今後のご活躍をお祈り致します。

今後とも少しでも興味をもっていただける紙面づくりを心掛けています。ご感想、ご希望などがございましたら社報編集室までお寄せ下さい。(見)

西宮えびす平成9年新春号 (通巻第6号)
平成8年12月1日発行
発行 / 西宮神社
〒662 西宮市社家町1-17

編集 / 講務課広報
デザイン / OHTAファーズン
写真提供 / 朝日新聞大阪本社
協力 / 住友電気工業(株)広報課
西宮吉光福楽会
(株)エビスシマダ
(株)いぬづか写真室
社寺建築(株)奥谷組

◎講社の入会ご案内

阪神間の中心地・西宮にありながら緑深いえびすの森に鎮まる西宮神社は福の神祇本社として古来より親しまれてきました。その御神徳は、全国津々浦々にまで広がり、各地で「えびす講」がつくられてきました。

当社では、これらをまとめて、どんな様でも入っていたいただける「本えびす講社」と「日供講社」として運営を致しております。詳しい案内書は、西宮神社講社本部までご請求下さい。
☎ 〇七九八―三三―〇三二一



講員に授与される、お礼やお守り

◎ご奉賛のお願い



神池の橋

阪神大震災の爪痕は、境内にも未だ多く残されています。神池をはじめ、社務所などの諸施設も手つかずの状態です。

平成十年九月十二日までのご奉賛に對しましては、大蔵省より特別免税措置がとられており、課税所得から控除できます。詳しくは、西宮神社復興奉賛本部までお問い合わせ下さい。
☎ 〇七九八―三三―〇三二一

「十日えびす」にちなんだ招福の品々、平成9年も協賛の団体・企業から発売予定



- ① 阪神米穀「えべっさんのお米」
- ② 西宮市内の日本酒醸造17社による共同銘柄「えべっさんの酒」
- ③ サッポロビール「エビスビール」
- ④ 神戸風月堂「えびす巻」
- ⑤ NTT西日本テレカ「えびすテレホンカード」
- ⑥ 西宮郵便局「えびす絵入りはがき」
- ⑦ 阪神電気鉄道「らくやんカード西宮えびす」
- ⑧ JT日本たばこ産業「十日えびすタバコ」

☆各社とも十日えびす期間中、神社周辺特設売店にて販売予定。(写真は平成8年のもの)

福をつかめ

◎平成八年の福男に聞く

江戸時代から続く開門神事の福男に選ばれた三人は、共に五日後に成人式を迎えられました。二年連続二番福の善齊さんが三年連続一番福の森本さんを制して、初めてつかまれた一番福。今回は、中学時代からのライバル同志だった福男の授けられた「福」をご紹介します。



聞き手 西宮神社宮司 吉井 良隆

◎何回も挑戦されていますが、その魅力とは。

善齊 年々参加者が増え、今回は約八百名位参加されたそうですが、それだけの人数で二斉に走るの、本殿の福男の綱を握った瞬間、全身の力がぬげ、本当に勝った感じがしますし、単なる競争ではなく、参加者全員が「えびす様の福を頂く」という気迫のようなものを周囲からも感じられるところです。

森本 やはりあの独特の緊張感ですね。インターハイに出場した時も緊張しましたが、整備されたトラックとは違い、境内は神々しいというか、神様に見守られている感じがします。そんな中で実力を出し切って「福男」になる難しさ、正攻法だけではない運のようなもの、福男になって本殿に上がった時には、感動と興奮で鳥肌が立ってしまいます。

◎福男になるコツのようなものはあるのですか。

森本 とにかく良い場所を取って、群衆に吞み込まれないように前を走ることです。しかし、一番有利なはずの前列の門の中央は、あまりよくないみたいです。今回は二番福四連覇を狙っていたので、閉門前の前日午後九時頃から一番良い場所を確保していたのですが…。

善齊 そのジグスタスは、何回か聞いたことがあります。トップで走って追われるよりも二番手の方が気分的にも楽ですし、周囲の状況も見えてきます、最後はどこで力を出し切るかです。寒い時期ですので準備運動も欠かせません。

◎どんな福を授かりましたか。

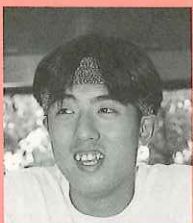
善齊 友人や後輩達が応援してくれることです。毎年、高校時代の後輩達が応援に来てくれ、場所取りを交替してくれたり、荷物を預かってくれます。大学の友達や昔の知人などからも「テレビで見たよ」と声を掛けられ、これまでになかった交流が生まれてきました。

森本 中学時代から陸上を始めましたが、福男になったのを機に急に記録が伸び、自分でも驚いたくらいです。高校の時は、インターハイや団体にも出場でき、社会人となった今も大きなケガもなく陸上競技を続けています。仕事の方も順調に成果を上げ、実業団でも全国大会への出場権を獲得できました。周りの人も「君はえびすさんに守られているね」と何かと応援して下さるのが頂いた福だと思っています。

◎最後に、今後の抱負などがあれば。

善齊 この行事に参加するようになって、自分が多くの人達に見守られて生きているのだということを実感してきました。今度は追われる立場ですが、陸上をやっている間は、けじめとして挑戦し続けたいですね。森本 これまで六回連続参加して五回福男になることができました。

福男



一番福 善齊 健二さん

S.50年9月生、今津高校から現在大阪体育大学3年在学中、陸上部所属。開門神事には平成4年から5回連続参加、前回まで2年連続二番福。泉南郡熊取町在住。



二番福 森本 晋由さん

S.51年3月生、大阪太成高校から住友電気工業に就職、実業団チームに所属。開門神事には平成3年から6回連続参加、前回まで3年連続一番福。大阪市此花区在住。

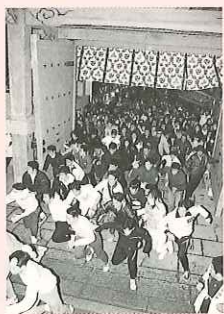


三番福 嶋田 葵さん

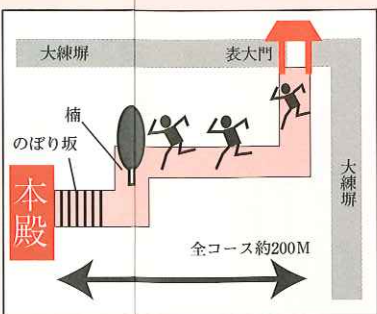
S.50年5月生、明石高専から今春東京大学3年に編入学。東京都豊島区在住。春から東京での新しい生活が始まりました。マラソンの同好会に所属、ホノルルマラソンに向けて調整をしています。今回、ゴール直前で前を走る2名が転倒、開門神事2回目の参加で福男に選ばれました。福男になるコツはスタートの場所と最後まで走り切れる体力と運だと思います。この運を活かすために、今後も機会があれば参加し続けたいです。



◆開門神事福男選び◆



鎌倉時代の文献にも見られる「忌籠」の風習により一月九日深夜十二時、どれ程の参拝者があっても、一旦境内の全ての門を閉じ、門外で待機をして頂きます。午前四時の十時過ぎ大祭を終え忌籠の明けの午前六時、大太鼓を合図に表大門（赤門）が開かれると、待ち構えた参拝者が先を争って約二百名先の本殿へ向けて走り参りをします。本殿に早く到着した順に一番から三番までがその年の福男として認定されます。



本殿に走り参りをする風習は、十日えびすの参拝者の増えで来た江戸時代頃から自然発生的におこってきたもので、記録が正確に残っている戦後では、昭和六十二年から平成二年までの本田勝一さんと平成五年から平成八年までの森本晋由さんがいずれも四年連続福男（二番福三年連続）のタイ記録となっています。以前は、日本海や淡路の漁師さんや地の利を生かした氏子の方が福男に選ばれることが多かったようですが今ではスポーツウェアに身を包んだ陸上部の選手などが上位を占めます。勿論女性が選ばれれば、福女様ということになります。

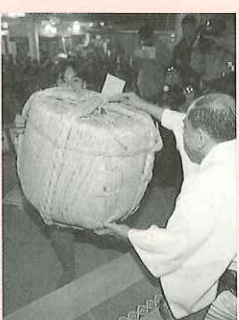
◎開門神事賞品

一番から三番までがその年の福男として認定され、えびす様ご神像をはじめ縁起のよい特別賞品が授けられます。また、先着八百名の参拝者による福引きにより旅行や福袋などの賞品がもれなく授けられます。

●福男賞品（先着二百名）

- 一神像、認定証、えびすさん米俵、えびすさんの酒斗
- 二番福 一神像、認定証、あかふじ米俵
- 三番福 一神像、認定証、焼き鯛
- 参加者福引き賞品（先着八百名）
- 旅行招待（二本）
- 東京デイズ（二）ランド（十）小豆西宮支店
- 宮崎シーガイア（日本旅行阪神支店）
- 福袋（八百本）

◎福引き抽選券は、開門前にお待ちの方にお渡しします。





商売の神・えびす様の全国総本社

西宮神社

十日えびす



◆宵えびす
一月九日(木)
午後二時 有馬温泉献湯式

◆本えびす
一月十日(金)
午前六時 開門神事福男選び

◆残り福
一月十一日(土)

年の始めに商売繁盛を願うお祭りとして知られている十日えびす。関西では親しみをこめて「えべっさん」と呼ばれています。タイを抱えたお姿からもわかるように、もともとは海幸の神であったえびす様。今でも神戸の卸売市場から奉納される特大マグロには、参拝者が絶えることなく硬貨を張り付けて願いを託しています。漁業の安全や豊漁を願っていた人々の思いは、時代を越えて脈々と受け継がれているようです。

本殿で暫いも新たに手を合わせた後は、縁起物を買う吉兆店やむかし懐かしい露店・見世物小屋をのぞかれては。活気あふれる十日えびすで二年の幸福を呼び込みましょう。



◆有馬温泉献湯式◆



◆開門神事福男選び◆



◆開運招福まぐろ◆

◎吉兆のいわれ

昔からの端唄に「十日えびすの売物は、縁袋に取鉢、銭吹、小判に金函、立烏帽子、米箱、織櫃、束ね駄斗、お笹をかたげて千鳥足。」というのがあります。これらは、福笹や福箕、福さらえ(熊手)などにお札やお面と共にいる縁起物で、吉兆と呼ばれています。

海の幸

もともと海神であったえびす様の持つおられる①タイや祝儀に添える②熨斗アワビ。

商の幸

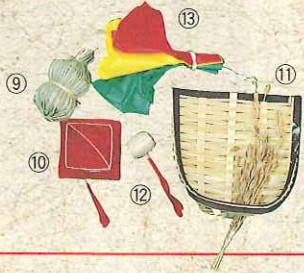
商売繁盛の象徴である③大判小判や④金封。商売道具の⑤大福帳や⑥取鉢、銭を入れておく⑦金箱・かます、⑧蔵の鍵。

山の幸

田の神としても信仰されているえびす様は春に山から下りてこられ豊作をもたらして帰っていく。豊作の象徴である⑨米俵や計量器の⑩枡、農具の⑪箕や工作具の⑫小槌、煎った米を入れる⑬はぜ袋。

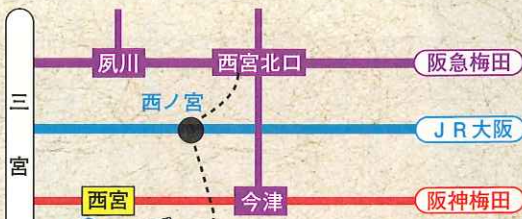
里の幸

えびす様のかぶっておられる⑭金の烏帽子や末広りの⑮扇、博打に使う⑯サイコロ、福を呼ぶ⑰鈴。



神社から授与される「福笹」と吉兆店の「福箕」や「福さらえ」。

露店や見せ物小屋で賑わう境内。



◆交通のご案内

阪神電車西宮下車すぐ
阪急西宮北口駅・JR西ノ宮駅から
臨時直通バス(1月9・10・11日のみ)

初詣・十日えびす期間中は境内駐車場が使用できません。
ご参拝には電車・バスをご利用下さい。

新年・十日えびすを迎えるにあたり



◆迎春準備
初詣の参拝者に授与する福矢や招福御幣、千支の土鈴や絵馬の準備がすすまられています。白衣に緋袴姿の巫女が授与品をひとつずつ点検して箱や袋に詰めていきます。



◆12月 えびす面づくり
十日えびすの縁起物であるえびす面づくりが宝塚市郊外の作業所で行われています。面にかたどった粘土を窯で約十時間かけて焼いたあと筆を入れ、和やかな表情が描かれていきます。



◆迎春準備

◆煤払祭 (12月27日)

一年の安泰に感謝をする祝詞をあげたあと、白装束にマスク姿の神職が長さ約四メートルの竹ざおの先端に笹の葉をつけた巨大な特製ほうきで本殿の煤をお払いします。



◆12月 巫女研修 (12月22日)
初詣・十日えびすに笑顔で参拝者をお迎える臨時奉仕の巫女の研修会が行われます。着慣れない巫女姿で授与品の説明や対応の仕方、心の準備を整えていきます。



◆12月 10日 えびす面づくり

◆1月 百太夫神社祭 (1月5日)

えびす信仰を全国に広めた人形遣いの祖神を崇めるお祭り。この人形遣いらが淡路人形浄瑠璃や大阪文楽のもととなっています。祭典に引き続き淡路のえびす舞が奉納されます。

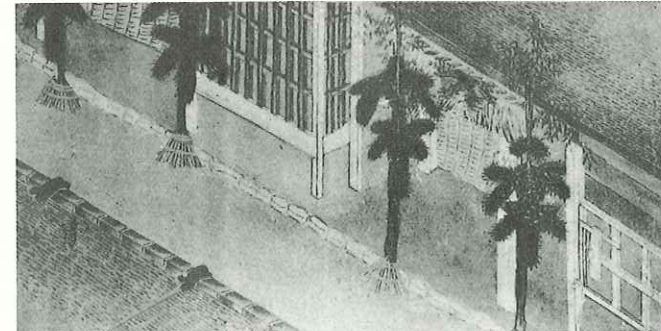


◆大マグロ奉納 (1月8日)

十日えびすを前に神戸市東部水産物卸売協同組合などから約三百キロの特大の本マグロが奉納されます。卸売市場の震災復興が完了するまで毎年ひとまわりずつ大きくなるそうです。



いごもり 忌籠神事



正月九日夜 忌籠の町家 (江戸時代)

◎忌籠と十日えびす

忌籠とは、祭典の前に心身を清浄潔白にするために外界と隔たつて慎み身を清めることをいい、祭典が重要であればある程、厳重に行われます。十日えびすの祭典は、昔は御狩神事と言われていました。この神事自体は今では廃絶し、内容はわかりませんが、住吉大社の中にあるえびす神社で行われた記録によりますと巫女が男装し、狩りの舞踏をしていたとあります。

鎌倉時代、西宮の山手にある広田神社では、甲山の神呪寺の僧侶の妨害により、御狩神事が行われなくなりました。

害により御狩神事が延期されたといわれています。その頃は実際に狩場に出ていたのに、領地を巡る争いがあつたことが窺えます。年の始めに狩猟をし、その多寡によって穀物の豊凶を占い、豊饒を祈る古代の風習が巫女による舞踏になり広田神社から当社に伝わり、厳重に忌籠が行われるようになったのではないのでしょうか。今でも年初に各地で行われている御弓始祭や御粥占などの神事も起源は生産豊饒にあります。謹慎齋戒の後神意を窺い、その恩恵によって生産増強を希求し安定繁栄を願う、現在の十日えびすにも共通するものがあります。

◎白馬に乗って巡行されるえびす様と畜生紺屋伝説

江戸時代には、えびす様が白馬に乗って市中を巡行され広田神社に行かれるので、門松の松葉が神様を傷つけないように一月九日の夕刻、各家では門松を逆さにつけかえ、門戸を閉じ、もの音をたてずに静かに夜が明けるのを待ち、早朝先を争って社参したと記されています。また西宮浦の邪神が毎年一月九日の夜、生け贄をとるので、えびす様の教えによって門松を逆さにしたとあります。



ある年、氏子の紺屋(染物屋)を営んでいる人が、何とか一度神様のお姿を拝せないものかと九日の深夜、便所の窓際でこっそり待っていたところ、暗闇の中から「そこにいるのは誰じゃ」と驚いた紺屋は「私は畜生でございます」と答えたところ、何のお咎めもなくえびす様が通過されたとか。後年この家を人呼んで畜生紺屋と称し、明治年代まで子孫といわれる人も残っていました。今では門松を逆さにする風習もなくなりましたが、宵えびす一月九日の夜の十二時になると、どれ程の参拝者があつても、一旦全ての門を閉じ、午前四時の十日えびす大祭を終え、忌籠の明ける午前六時まで参拝をしていただくことはできません。午前六時、大太鼓を合図に表大門(赤門)が開かれると、外で待機していた数百人の参拝者が一斉に本殿めがけて走り参りを行い、本殿に早く到着した順に一番から三番までがその年の福男として認証をされます。

◎表大門の修復を振り返って



社寺建築(株)奥谷組 代表取締役 千田 日出雄

国の重要文化財に指定されている表大門は、豊臣秀頼の奇進によるもので、幾多の戦火・天災地変を経ながら、約三百九十年の永きにわたり神社の表門として使われてきました。今回の震災により、門全体が東側に移動し傾いていたのを起こす工事の中で、痛んだ部材を取り替えるのに、瓦を乗せたまま六十センチもある屋根を持ち上げ、柱をはずして貫を入れ替えるというのは、初めての経験でした。今はコンクリートの建物でもジャッキアップする時代であり、ジャッキも良いものがありますが、上の荷重を下に伝えるのが柱しかない構造である門を違う所で支えなければならぬので、ジャッキをかける位置に苦心しました。幸い桁も棟木も真ん中近くで継いであったので予想以上に順調に進み、十日えびすの開門神事にも間に合いました。これも一重にえびす様のおかげであると感謝しています。昭和二十年の空襲の時には、先々代の宮司さんの機転により大練塀の屋根を伝わる火を近くの駐屯隊の協力で消し止めたために焼けずに残ったと聞かされており、年数や建物としての良さは他に変え難いものであり、今後とも永く守り伝えていかれますように祈念いたします。